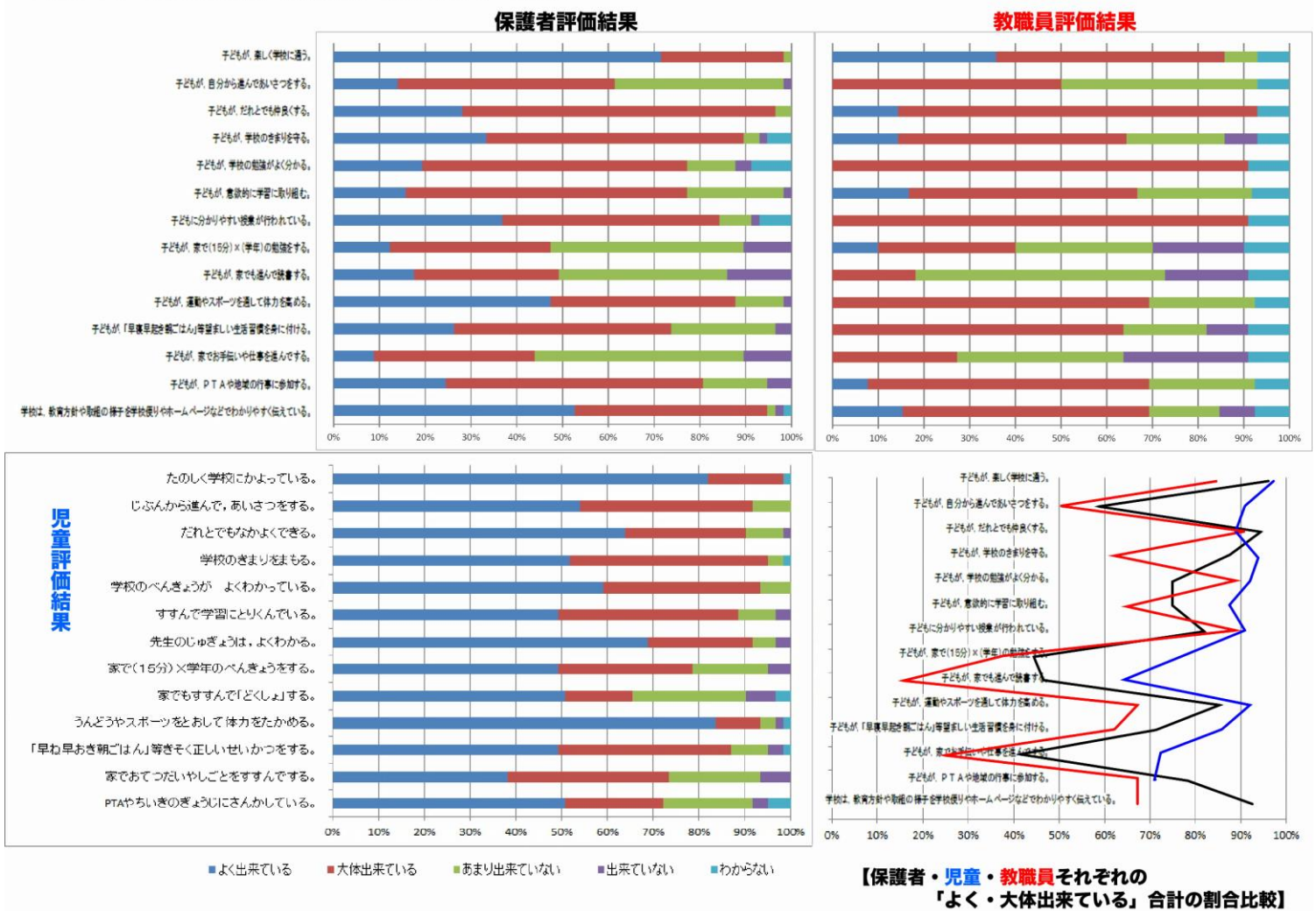


【保護者重要度と実現度の分布結果について】

「重要度」については、今回の調査でもすべて中央より右側に集まり、どの項目についても、保護者は「重要である」と考えています。また、それらがどれくらい実現されているかを示すのが「実現度」で、これは図の上側に行くほど実現できているという結果を示します。これら「重要度」と「実現度」とを関連付けて、それぞれの項目がどのような分布になったのかを示すのが上の図です。今回、最も重要でしかも実現できている（右上）に8項目、やや重要で実現できている項目に3項目が入るという結果となりました。何よりも子どもたちが楽しく学校に通い、友達と仲良く過ごせていると感じてもらえていることがわかります。一方、重要であるにもかかわらず、あまり実現できていない項目が2項目ありました。それは、家庭学習に関わる「家で15分×学年の勉強をする」と、日常生活に関わる「家でお手伝いや仕事を進んでする」の2項目です。家での様子に関わる項目が下位にきています。学校ではきまりを守って、学習に励んでいるようですが、家ではそれが生かされていないように感じられます。

平成29年度前期学校評価（実現度）結果



【項目ごとの実現度の結果について】

今回のアンケート項目は14項目（児童は13項目）でした。保護者、教職員、児童それぞれの結果を上にししました。また、それぞれの「よく出来ている」と「大体出来ている」という肯定的な回答を合わせたパーセントをそれぞれに色を変えて重ね、比較しました。これを見ると、よく出来ていること、逆にあまり出来ていないことの感じ方は、度合いについては多少違いますが、どれもよく似た傾向が出ています。

評価が低かったのは、「家で15分×学年の勉強をする」という項目と、「家でも進んで読書する」、「家でお手伝いや仕事を進んでする」という3項目でした。

また、「自分から進んであいさつをする」という項目では、児童の評価は約90％なのに対して、教職員・保護者評価は60％弱ということで、30％もの開きがありました。子どもたちが以前に比べてあいさつをするようにはなっているものの、登下校で地域の方に会った時には、まだまだできていないことが多いという声を聞いています。また、子どもたちはあいさつしているつもりでも、声が小さかったり、相手の顔や目を見て言えていなかったりして、あいさつの気持ちが伝わっていないこともあるように思います。

「家で15分×学年の勉強をする」という項目では、児童の評価は約80％に対して、保護者は約45％と低い結果でした。これは、保護者は勉強の時間だけでなく、勉強している内容や量・態度などを見て、あまりできていないと感じているのかもしれませんが。「家でお手伝いや仕事を進んでする」という項目については、保護者と児童では30％余りの差があります。「親に言われる前にしてほしい」というレベルを保護者は求めているのか、「言ってもやらない」「言うことを聞かない」レベルなのかわかりませんが、重要度が高いだけに、子どもたちの頑張りに期待するという思いなのかもしれません。

【学校運営協議会の皆さんから】

- ・よい結果を受けて、今後も引き続き取組を進めてほしい。
- ・子どもたちの実態をどんどん保護者に伝えて、家庭学習をしっかりとるように働きかけていく必要がある。学校から保護者へ啓発する努力をしてはどうか。
- ・登下校の子どもたちの様子はとても楽しそうで、充実した学校生活が送れていることが分かる。
- ・「あいさつ」をしない子どもが多いことは事実である。逆に丁寧すぎる子どももいるし、友だちに話すような話し方をする子どももいる。子どもから自発的に始まった「あいさつ運動」の取組は、ぜひ今後も続けていってほしい。
- ・校区内で子どもたちが遊び回っている姿をあまり見かけなかったが、たくさんの子どもたちが意欲的に運動をしていることが分かり、よい傾向である。
- ・子どもたちの学習や活動の様子を見るのが楽しみである。
- ・「学校だより」や「ホームページ」は、学校の様子を知る大事な手段なので、これからも楽しみにしている。ホームページも出来る範囲で数多く更新してほしい。

【学校をより良くするために】

《確かな学力の育成に向けて》

本校では、各種のテスト結果については平均を上回り、全体としては良い結果を維持しています。これについては、学校での日々の授業改善への取組の成果が表れていると考えています。ただ、詳しく見ると、まだ十分といえない力があったり、より確かな学力を身に付けなければならない面があったりすることを考えると、今後も引き続き授業改善や新しい学習の取組に努力していきたいと思います。また、こうした学力は学校での学習だけで身に付けられるものではありません。宿題さえしたら学習できているというわけでもありません。放課後まなび教室で宿題をやりきってしまったら、家で勉強しなくてもよいということではなく、学校での学習を家庭でも連携させてつなげることが大切だと考えています。

そのため学校では今後、

- ・意欲をもって学習に取り組めるような授業の改善，工夫をすること。
- ・分かる実感や喜びをもたせられるように、よりわかりやすい授業を心がけること。
- ・読書に親しめるように朝の読書や読み聞かせ，ブックトークなどを利用して働きかけること。

等に取り組めます。

そして、学校での学習をしっかりと定着させるために家庭で学習できるようご協力をお願いします。放課後まなび教室や学童とは別に家庭（自宅）で、15分×学年の時間を目標に、学習に取り組めるようにしましょう。

たとえば、

- ・漢字・計算などを繰り返し学習すること。
- ・今日学習をした問題をもう一度自分で解いてみること。
- ・自分の興味関心に応じ、自分で決めた学習に取り組むこと。
- ・読書に親しめるようお子達に働きかけること。

（親子読書…それぞれ違う本を同じ時間に読む・リレー読書…同じ本を交替して読む）

等について、宿題や教科書，市販の問題集などを利用して取り組んでみてはいかがでしょうか。

《豊かな心を育てるために》

「あいさつ」については、子どもたちが高い自己評価をしているにもかかわらず、保護者や教職員が低い評価になっています。「あいさつ」は、人と人の関わりの基本となるものです。すてきなあいさつというのは、『お互いの顔を合わせて、目を合わせて』、『笑顔』で、『相手に聞こえる声』でするものなのだと、子どもたちに大人が手本になって教えていく必要があるのかもしれませんが。登下校の時に、地域の方にもあいさつできるようになってほしいと思っています。学校でも、引き続き声掛けを継続していきますので、ご家庭でもぜひ、『さわやかなあいさつ』を心がけていただければと思います。いつでも、どこでも、だれにでも、自然にあいさつができるようになるとすばらしいです。

八瀬小学校の子どもたちのすてきなところは、「楽しく学校に通う」「誰とでも仲良くする」に高い自己評価をしていることです。八瀬小学校では、毎月「友だちの日」の取組として、一人一人の友だちを大切にする学習をしています。また、縦割りグループである「友だちグループ」での活動も活発に行っています。こうした豊かな心を育む取組をさらに充実させ、子どもたちが「毎日学校へ行くのが楽しい」「みんなと仲良く遊べるからうれしい」という学校生活が続いていくように努めていきます。

《健やかな体を育てるために》

今回のアンケートで子どもたちは、「運動やスポーツを通して体力を高める」に高い自己評価をしていました。3年生以上の子どもたちはどの学年も半数以上が放課後の部活動（卓球・バスケットボール）に参加しています。部活動に参加していなくても、学校外でスポーツをしている人も多いです。また、一昨年より毎週水曜日を「ロング昼休み」にして、学年で、縦割りグループで、全校でなど様々なスタイルで運動場を使って遊んでいます。さらに高学年については、放課後にランニングを継続して行っています。このように、運動やスポーツに取り組んでいる結果だと思われます。これからも、健康な体を作っていくために、より体力を高めていくために、こうした運動やスポーツの取組を続けていきたいと思います。

今回の結果を踏まえ、八瀬小学校がより良い学校となるよう、具体的な取組を進めていきます。保護者・地域の皆様のご協力をお願い致します。